

# 島田川流域の遺物

## 須恵器 坏蓋 3点



①

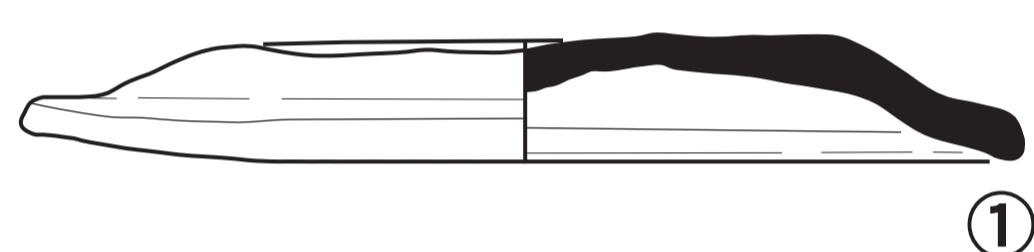


②

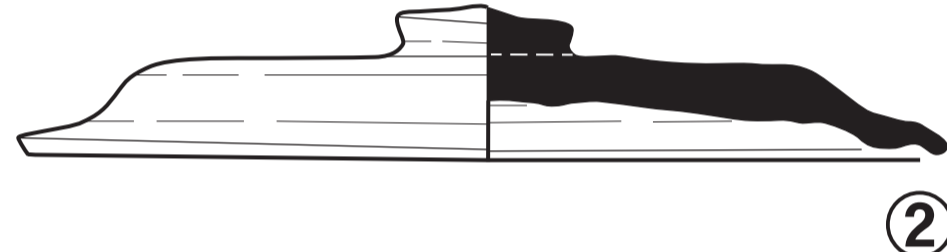


③

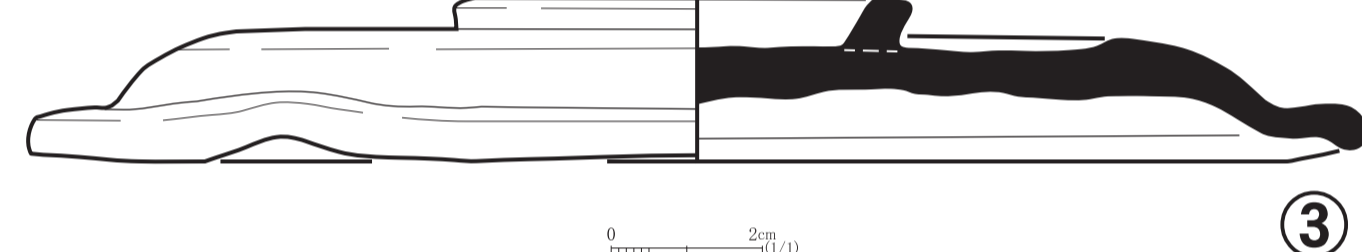
遺物写真



①



②



③

遺物実測図

### 資料の概要

■資料名：須恵器 坏蓋

■所属時期：平安時代前期

■出土地：①島田川中流 ②周防和田山 ③不明 ※現：光市北部～周南市西部か

■出土年月日：不明

この3点の須恵器坏蓋は、いずれも出土年月日が不明なもので、一方で大まかな出土地情報が伝わっています。

①は天井部外面に「島田川中流」、②は天井部内面に「周防 和田山(6)」、③は資料自体に注記はありませんが、これらと同一の遺物袋に収められていました。

山口大学では、昭和25年(1950)から昭和27年(1952)にかけて、県東部を流れる島田川流域の遺跡を調査するため、当時教育学部光分校に勤務していた小野忠熈名誉教授を中心に「山口大学島田川遺跡学術調査団」を結成し、流域に分布する弥生時代の遺跡を中心に発掘調査を実施しました。同時に、上・中・下流域の踏査も行い、遺跡の分布状況も確認しています。この3点の須恵器坏蓋も、この分布調査の際に採取・寄贈を受けた可能性を指摘できます。

資料の出土地情報を見ると、①の島田川中流というのが、三丘村(後の熊毛町、現周南市東部)、周防村(現光市北部)に該当します。②の周防和田山は島田川下流域の光市和田、もしくは中流域の周南市三丘和田と推定されますが、特定できません。

「山口大学島田川遺跡学術調査団」に関わった方々も、現在ではご高齢かと思えます。資料に見覚えのある方、ぜひ情報をお寄せ下さい。